

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月31日

事業所名 輝HIKARIみらい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・個別スペースを2部屋作成し、活動内容によって子どもの位置を分散している	・個室で個別課題やクールタイム部屋にするなどの他の使い方も模索していく
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・トイレをバリアフリー化している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・業務の自動化ができるところは自動化して時間を短縮している	・PCの扱い方が分からない人もいるので、PCリテラシーを向上させていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・アンケートだけでなく、普段から連絡帳や送迎時に口頭で伝えてもらい、意見を取り入れている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・第三者の外部評価は受けていない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・OJT振り返りシートがあり、業務の振り返りや指導をしている	・施設内研修を増やしていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・支援計画はお子さんと保護者、両方のニーズを大切にしている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・担当を決めてチームで行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・新しい活動をスタッフ同士で話し合い、積極的に活動に取り入れている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・休みの日等は社会経験が得られるものを行っている	実施回数が少ないのもっと増やしていきたい
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・個別の特性や課題を考えながら、課題を作成して行っている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・昼礼時に前日の申し送りなどを行っている ・不安なことは積極的に質問してもらっている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・終礼をやっている ・気になることは質問、発言して情報の共有を図っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・業務日誌、個人ファイルを毎日記録している	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・モニタリングを行い、その議事録を職員やパートアルバイトと共有し、意見交換を行っている		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		5領域を意識しながら支援活動を行っている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			・求められれば提供していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			・連携とまではなっていない
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・面談を定期的に行って共有している	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			・ペアレントトレーニングは行っていない
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・契約時や変更時に行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・電話や直接面談をして、できる限り情報を共有している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			・すぐに情報を共有して対応策を考えたり共有し、保護者に電話したり訪問している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・SNSを通じて発信している	
	35	個人情報に十分注意している	○			・スタッフと秘密保持契約を結ぶなど注意している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・面談や連絡帳を利用している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・スタッフ間で共有している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・避難訓練は定期的に行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・法人で虐待防止委員会を設置し、事業内研修などを適宜行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・記載されている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・食物アレルギー対応の子供がすぐわかるように職員がすぐ目に留まる場所に一覧表を表示してある	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			